

# よろこび

聖徒のための情報誌

### 今月号の内容

- 沙弥校の報告(1面)
- 沙弥校参加者感想文(2面)
- 法華経のお話⑮・よろこび
- ちゃんの質問箱(3面)
- よろこび法話・一日伝道
- 報告『宮崎県延岡市』(4面)

平成24年(2012年)10月1日(月)  
10月号

発行所  
〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町3-25-11  
九段中央ビル702  
日蓮宗霊断師会九段事務所  
電話 03-6272-9340  
FAX 03-6272-9341

### 日蓮宗霊断師会

会長 新聞 智雄  
編集人 松本 恵昌  
購読料 1部 105円  
毎月1回1日発行  
日蓮宗霊断師会ホームページ  
http://www.yorokobi-reidanshikai.jp  
よろこび投稿メール  
yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp

## 法華経の命を継ぐ師弟を養成 「沙弥校」 東京感通寺で開催!



『法華経の命を継ぐ人』を育てる為にある。

日本はもとより、広く海外で御題目弘通に専心専業する霊断師各聖の子弟教育を目指す本会に於いては、霊断師各聖が愛してやまない法灯の継承者たる子弟に、法要儀礼は勿論のこと、弘道者たる我が師、我が父母の真の姿を、何よりもその心にしっかりと、そして鮮明に止め置くことが「沙弥校」開催の真義である。

七月二十五日から二十八日、「第二十八回日蓮宗霊断師会沙弥校」が、東京新宿の感通寺(新聞智雄会長・御自坊)を会場に三泊四日の日程で開催された。

参加者は、将来、僧侶を志す小学校四年生から中学校三年生まで



本堂前での記念撮影

えや礼儀作法、お釈迦様や日蓮大聖人様の伝記やみ教えを幅広く学ぶ「教養」の時間には、真剣な表情で講義に聴き入り、「声明」の時間では、所作を磨き、整えることが心のありよう(姿勢)を変える力となる。このテーマのもとに、慣れない正座で足の痛い中、難しい法要の所作を幼い体に植え付けるように体得していった。

今回も、健康管理や食事に関しては、感通寺の皆様や女性霊断師の皆様のご協力と細やかな配慮で、子どもたちを気遣う美味しい献立を提供して頂いた。管理監督する教監部・大

の霊断師の子弟。

法友との一年ぶりの再会を果たしたよろこびの中、これからの修行の時に緊張の面持ちで開校式に臨む子供たちに新聞智雄会長は、「皆さん一人一人の肩には、お釈迦様・日蓮大聖人様・御先祖様・檀信徒の皆様、そしてご両親の想いが乗っています。皆さんにとって、時にはそれが励みとなり、厳しさともなりますが、その想いに応えていくことが大切なのです」との励ましの言葉を贈られた。

三泊四日の凝縮された修行期間中、子どもたちは「読経」の時間には、声が震えるのも惜しまず一生懸命大きな口を開けて読経に励み、遂には『如来壽量品第十六』一品をすらすらと読誦出来るようになる。また、僧侶としての心構

新聞会長の人材育成への熱い思いが形となって始まった「沙弥校」。一十八年という年月を重ね、今年もまた、全国から元気のいい子供たちが集い、皆で競い合い、助け合いながら厳しい修行に励みました。

今年の参加者は、皆沙弥校経験者でしたので、修了式には全員が木鉦や太鼓等の役に就き、子供たちだけの法要となりました。

緊張の面持ちで自分の担当に真剣に取り組み、最終日には責任を持ってやり遂げてくれました。子供たちには「出来た!」という満足感と大きな自信につながったと思います。また、自分の父親以外の師とマンツーマンで行った練習

も、きつと良い経験になったことでしょう。

子供らしくあふれるような笑顔、キラキラした瞳、真っ赤になつて大きな声で発声する頑張り顔、衣を着て真剣な眼差しに変わった凛とした顔。これからの子たちが、また後輩を育てながら日蓮宗の未来を拓いていく。四日間を通して、様々な表情を見せてくれた子供たちに接して心が清められ、大きな宝を貰ったのはむしろ我々の方でありました。

「沙弥校」開催にあたりご協力いただきました方々、送り出して下さった親御様、そして沙弥校生の皆さんに心より感謝申し上げます。



教頭 吉田 憲由

(日蓮宗霊断師会伝導局聖徒部長)

## 沙弥校を終えて



朝の勤行

膳部にとっては、「先生、美味しかった!」という子供たちの感謝の言葉は励みであり、僅かな沙弥校期間の中で、時々刻々成長する子どもたちの姿こそが何よりの「よろこび」であった。

修了奉告式では、子供たちだけの出席による「法要」が厳修され、修行の成果を大曼荼羅御本尊にご奉告申し上げ、今回をもって卒業となる青森県慈法結社・渡辺真行君が、沙弥校生を代表して「誓いの言葉」を読み上げた。

「皆さん、本当に良く頑張りました。仏様は皆さんの頑張りを見て下さっています。お寺に帰ってからも怠ることなく修行に励み、檀信徒の皆様のために一生懸命勉強やスポーツ、そして、お寺のことに頑張ってください」との蔵本知宏校長(本会指導局研修部長)のお祝いの言葉をもって、本年度「沙

弥校」はその全日程を終了。

日蓮宗、そして霊断師会の次代をになう若き菩薩たちは、この期間を通して得た、生涯に互いに「御題目を弘める」一生の友との修行の思い出、エクスカッションで訪れたデイズニースhowerの楽しいひと時を胸に、また来年を合言葉にそれぞれの故郷へ帰って行った。

**津軽宇田山 間法寺**

10月28日 午前9時より  
「日蓮大聖人御会式」  
毎月 第2土曜日  
午後3時より「唱題修行」

〒030-1403  
青森県津軽郡外ヶ浜町平館元宇田52-2  
TEL 0174-25-2712

住職 工藤 堯幸  
副住職 工藤 堯慎・修徒 工藤 堯顯

**日蓮宗 東光山妙正寺 聖徒団**

妙正寺聖徒団 錦川照子

10月14日(日)11時  
納骨並びに納位牌堂諸精霊総供養。  
鬼子母神大祭。小松原法難会。  
毎月1日午前10時 盛運祈願会

**妙正寺聖徒団** 団長 関 龍雄  
〒071-1423  
北海道土川郡東川町東町2丁目6-3  
TEL 0166(82)2714  
FAX 0166(82)2914

いかされるよろこび

**美濃乃國 常唱寺 聖徒団**

〒501-3734  
岐阜県美濃市千畝町2738-2  
TEL/FAX 0575(33)1430

**本山 妙顯寺**  
日蓮大聖人御真骨奉安

齊藤日軌貫首著  
「日蓮宗の戒壇、その現代的意義」  
国書刊行会

CD「感謝百万遍陀羅尼」  
「ないないブルース」

好評発売中!

〒327-0843  
栃木県佐野市堀米町264  
TEL 0283-22-1524  
FAX 0283-22-4194  
http://www.sano-myoukenji.jp

**日蓮宗霊断師会会長 感通寺聖徒団団長 新聞 智雄**

〒162-0044  
東京都新宿区喜久井町39  
TEL 03-3209-8782  
FAX 03-3208-7966

# 「沙弥校」参加者の感想文



愛媛県 法華寺  
讃岐 英 遵  
(小学校六年)

ぼくは、沙弥校に参加してとてもよかったです。出来るようになったことは、如来じゆりよう品第十六がもっと上手に読めるようになりまし。二日間かけて、のどがかわるくらいお経をあげました。

積尊伝では、お釈迦様の一生をならいました。

来年の沙弥校では、お釈迦様の説かれた教えを教えてくださいようです。

日蓮大聖人伝では、日蓮大聖人の一生や、説かれた教えをおそわりました。そして、「ご飯がとてもおいしかったです。また、来年も沙弥校に来たいです。」



島根県 妙法寺  
新聞 信 隆  
(小学校六年)

ぼくは、この沙弥校に参加したことでお経や足のシビレの取り方が、少し上手になりました。本堂でのお経が一番つらかったです。

一番集中して勉強できたのは、田平先生の日蓮大聖人伝と、みうら先生の積尊伝でした。ぼくは日蓮大聖人のことは少しわかっていたけど、積尊伝はまったく知りませんでした。

お釈迦様は、いろいろなつらい修行を一人ですてきたということが、とてもすごいと思ひました。ぼくもきつとお坊さんになつて、えらい人になりたいです。

沙弥校に参加している人はとてもやさしいし、先生もこわい人もいるけれど、ほとんどやさしく、みんないい先生でした。ま



青森県 道円寺  
飛鳥 玄 宗  
(中学校一年)

たこんどいつしよに楽しく吉田憲史さんと沙弥校に来て、いろんなことを学びたいです。

僕が今回の沙弥校を受講して心に残った事は、「妙法蓮華経如来寿量品第十六」の読経練習です。

新聞先生のきびしい指導の下での、寿量の読経練習が一番つらかったです。「自我げ」ではなく、一番最初から読むことはまづなかつたので、正座の時間が長く、足がしびれて、とても痛かったです。ですが、この読経練習を通して分かったことは、お経とは何かということでした。

新聞先生は、お経は仏様の魂そのものとおっしゃっていました。僕は、お経は仏様の言葉だと思ひました。新聞先生のおかげで、お経は仏様の魂だからとてもありがたいということが分かりました。

僕は今回の新聞先生の言葉を受けて、家に帰つてからお寺の行事に出るようになって、この言葉を忘れずに日々精進したいと思ひます。



宮崎県 龍雲寺  
吉田 叡 史  
(中学校一年)

ぼくは、この沙弥校で思い出に残つたことが二つあります。

一つ目は、読経練習です。大きな声を出さなければいけなかつたので大変でした。ですが、なかなか出そうとしても出来ませんでした。二日目は、正座をしながら読経練習をしました。足がかなりしびれてし



広島県 寿泉寺  
根師 宏 明  
(中学校二年)

まつたけど、やつと大きな声でお経が読めました。でも、立つ時に足がしびれていたので、かなりきつかったです。二つ目は、お釈迦様や日蓮大聖人様について、そして異体同心の事についてです。お釈迦様がどのようなことを考えていたか、日蓮大聖人様がどんな苦難をのりこえてきたか。協力、奉仕、寛大、共感、これが出てはじめて異体同心することが出来ること、しっかりとよくわかりました。この沙弥校で、協力、歴史、お経のことがよくわかりました。

僕は、今回の沙弥校で三回目でした。僕は沙弥校に参加して、いろいろなことを学びました。読経練習では、大きな声でお経を読みました。すこきびしなつたし、のども少し痛くなつたけど、少しは読むのがうまくなつたと思ひます。

今回は読経練習だけでなく、積尊伝でお釈迦様のことを学びました。さらに日蓮大聖人伝では、大聖人様はどのような人だったのか、どんなことがあつたのかということも学びました。

最後に声明の練習をしました。まだまだ不十分な所があるけど、また来年も来て勉強したいと思ひます。来年もくるぞー！



宮崎県 龍雲寺  
吉田 憲 史  
(中学校二年)

ぼくは、四回目の沙弥校に参加しました。一年ぶりに会う仲間達は去年より一まわり大きくなつていて、とてもうれしく思ひました。

会長先生や、校長先生のもと、たくさんの修行がありました。特に心に残つたのは読経練習です。先生達がとても厳しく、何時間も大きな声で「如来寿量品第十六」を



青森県 慈法結社  
渡 真 行  
(中学校三年)

一番最初から最後まで、繰り返し読み続けました。声もガラガラに落ちて、足も痛くなつたけど、どんなお経が読めるようになって、とてもうれしかったです。寿量品を四回も読めたのは、先生達のご指導と仲間達がいってくれたからです。ぼくは、仲間達と力を合わせて物事を達成することの大切さを沙弥校で学びました。来年、またこの場所にみんなが集結するのを楽しみにしたいです。

僕は、今年で三回生になりました。最初感通寺さんに来た時、「二班の班長です」と言われて、驚きました。僕が一回生、二回生の時の班長さんがとても立派だったの、ちゃんとできるか不安でした。初めは、あまり皆と話す事ができず心配していましたが、時間が経つにつれ、しだいに話せるようになっていきました。

また、今年の発声練習にも苦労しました。一回生や二回生の時は、声変わりして無くて高くて大きい声も出ましたが、声変わりのしたので腹から出さないと良い声が出ず、それを意識して発声練習をしました。すると、最初より良い声が出せるようになりました。

今回の教養では、難しい事も沢山あったのに、下級生の人たちが次々と語句や内容を言っていて驚きました。読経では、新聞先生の大きな声に驚かされました。本当に驚きの連続でした。声明では、おがみ方だけだけでなく、正しい所作を教わりました。

この沙弥校で習つた事を活かして、高校生活や、これからの人生に役立てていきたいと思ひます。そして、僧風林にも、出来れば参加したいと思ひます。

今回の沙弥校は、本当にためになりました。今回お世話になつた感通寺様、校長先生をはじめ、先生方、食事を作つて下さつた先生、有難うございました。



沙弥校スタッフ  
光枝 妙 珠

## 沙弥校について

小さな改良服を着た子供たちに感動した初めての沙弥校から十年目となりました。普段は会う機会のない子供たちが全国から集まり、僧侶の基本を学ぶ姿は宝物です。基本的な生活習慣と共に、教養・読経に励んだ子供たちは、短い期間の中でお互いの境遇を理解しあう友となり、切磋琢磨し、毎年の再会をとても楽しみにしています。子供たちの成長ぶりには毎年驚かされますが、それぞれが目標をもって参加し、習得した事が修了式の法要に表れます。お経を教える先生方も、教えられる子供たちも、声が潰れる程大きな声で練習し、やがて自信にあふれた声や、所作になるのです。『沙弥校は、大事な教育』という会長を始め、沙弥校は会場を提供して下さつた感通寺様、拘るスタッフの皆さんの一致団結した気持ちで子供たちが受け取り、そして私たちもパワーを戴ける貴重な期間です。自分の将来を『お父さんのようなお坊さんになりたい！』と胸を張つて言う子供たち。沙弥校に来て、お父さん以外のお坊さんにあこがれる子供たち。それぞれの生活環境の中で、大人の背中を見ている純粋で正直な子供たち。たとえ違う道に進むことになつても、この時期に得た経験は一生の宝物になることと思ひます。男の子がいない、子供がいない等、色々な悩みを持つお寺や結社もあることと思ひます。人材育成に重点を置く霊断師会の沙弥校で育つた子供たちが、お祖師さまの弟子として、自分の事だけではなく、他の人の力にもなれることを期待して下さいます。又、私は女の子が僧侶になる等、夢にも思ひていませんでしたが、全国の悩み多きお寺の娘さんも、是非この沙弥校を体験できたらいいと思ひます。そして皆、やがては霊断師となり、世の為、人の為に生きる人になつて欲しいと思ひます。

法華経のお話 15



無量義経の段 その十四

総合研究所主任

塩入幹丈

たというのです…。

①消された佛教

夫れ此の国は神国なり。神は非礼を稟けたまはず。天神七代、地神五代の神神其の外諸天善神等は一乗擁護の神明なり。然も法華経を以て食と為し、正直を以て力となす(与北条時宗書)

三十五歳以上の方なら憶えておられることでしょうか、平成二年一月二十三日から、ほぼ一年にわたり執り行われた、今上天皇陛下の即位に關する様々なる行事のことを。

その様子を伝えるテレビ・ラジオ(まだまだインターネットの時代ではなかったんですね)は、皆口を揃

えていったもので「古より伝えられてきた皇室の儀式です」云々と。

で、恐らくは当時の視聴者の大半(そして多分伝えていた側の放送局の人たちも)は、それこそ平安時

代、あるいは奈良時代、はたまた飛鳥時代等々と、各々のイメージする処の古代の世から、これらの儀式は綿々として伝えられてきたんだろ、いや、いや、伝統です、等々と思つちやたことでしょうか。

ところがギッチョン、事実ほさにあらず。いかに伝統、伝統とテレビやラジオが連呼すれども、それはせいぜい明治以降のこと。皇室の長き時代にあつては、つい最近の傾向とでもいうべきもの。

そこには本来あつたはずの佛教の部分が完全にデリートされていたのです…。

②神仏習合こそデフォ

用明天皇の御子聖德太子と申せし人、びだつ二年二月十五日東に向て南無釋迦牟尼佛と唱て御舍利を御手より出し給て、同六年に法華経を誦し給ふ。(中興入道消息)

聖德太子の世よりこの方、日本国は神仏習合こそが基本。

大曼荼羅御本尊様には、天照大神、八幡大菩薩が勧請(お祀り)されていることはご存じの通り。また日めくり過去帳でお馴染みの三十番神は、私たちお題目の信仰者を毎日交代でお守り下さる日本の神々のこ



と。

日蓮門下に限らず、日本人は今日神道のカテゴリーとされている日本の神々を、大菩薩、大明神、大権現等とお呼びし、佛教の神様佛様として信仰してきたのです。日本国の下万人がみなそうなら、上一人もまた同様。

たとえば現代の皇室では、新年に五穀豊穡と国民の安全が御祈念されますが、平安時代には宮中に集められた僧侶たちの金光明経の誦誦によつて、この新年のご祈念が行われました。

また春秋のお彼岸には、どこのお寺でもご先祖供養が行われるものですが、その始まりはやはり平安時代の皇室での、般若経誦による慰霊祭から。

その他、宮中での様々な儀礼も皆、神道と佛教のハイブリットされたもの。

今や神道の総本山と思われている皇室も、元々は篤く佛教を信仰していたのです。

だからこそ、明治以前の天皇は崩御(お亡くなりになること)されたならば、荼毘(火葬)に付されたのです。火葬こそはお釈迦様以来の佛教の伝統。

しかもこれは、本来転輪聖王の葬送の仕方に倣つたもの。いわば印度の王者の儀礼が、佛教を通して、ここ日本の王者の儀礼となつたといえましょう。

そして先帝が崩御すれば、当然皇子が即位の式を挙げるもの。佛教徒たる皇室が、佛教の儀礼を以て即位することも、又至極当然なることだつたんですね…。

よろこびちゃんのお問箱



お坊さんが肩にかけてるお袈裟って何？

お坊さんが衣の上にかけている【お袈裟】はね、インドの昔の言葉で「カサーヤ」という言葉を漢字で音写したもののよ。

言葉としては「汚れている」や「壊色(えしき)」といった意味で、本来は暑い地方(インド)での、使い古しの布きれを寄せ合せて作った衣…だったの。

また、袈裟は【福田依(いくでんえ)】とも呼ばれ、「農家の人々が田んぼに種をまいて収穫するよつに、仏教者も『善徳の種』をまくことによつて福徳を受けることが出来るの」。

昔の偉いお坊さんが、ボロ切れをまとつて追い返された家に、キンキラキンのお袈裟をつけてお参りに行く、今度はお家の人から「どうぞ、どうぞ」と通されて、「ワシよ

りも袈裟の方が偉いよつだ」と、仏壇の前に袈裟だけ置いて帰つた、…などという話も載つていたりするわ…。

お袈裟は仏弟子となつた【証(あかし)】。聖徒の皆さんの肩章も同じ気持ちで大切にかけると良いと思つわ。

《貪(むさぼ)らない・瞋(いか)らない・愚痴を言わない》：という弟子の証でもある、「三つ」の苗を福田に植え、毎日お題目の水を忘れることなく注ぎ、大きく育て上げてくださいますように！

※《貪・瞋・痴》とん・じん・ちとは、煩惱の根元ともいわれる《三毒》を意味する言葉なのよ。



は、やがて真に必要とされるべき処、そう日本は皇室へと伝えられ

# よろこび法話

## 信仰の継続

### 南無妙法蓮華經の信仰で大功德を頂戴



日蓮宗靈断師会 総合研究所 主任  
青森県東津軽郡外ヶ浜町開法寺聖徒団  
工藤 堯慎

当山に今年の五月五日より八十二日間、泊まり込みで修行をしたK君という青年がいます。

この青年は中学校を卒業し、高校に入学した頃から急に頭痛や吐き気をもよおすようになり、今春、大学を卒業してからも、夜も眠れず、少し動いただけで気持ちが悪くなつて横になるという生活を続けていました。

K君は、なんとかこの苦しみから逃れたいと、自分なりに一生懸命努力をしましたが、状態は一向に良くなりません。体調はどんどん悪い方向へと向かっていたのです。勿論、治療は県内でも有名な総合病院で受けてはいました。

自律神経の乱れが原因との担当医師の見立てで処方された薬は服用していましたが、良くなったり悪くなったりの繰り返しで、病状が安定することもなく、とうとう今春、大学卒業の時を迎えたのです。

せっかく卒業はしたものの、日々続く体



「僕は何が何でも救われたいのです。どうかこのお寺で修行させて下さい」真剣な眼差しでK君を見て、私は即座に彼の願いを受け入れました。この日からK君の当山の泊まり込みの修行が始まったのです。

当山の一日の流れは、朝四時半、起床。仏様に仏飯をお供えした後、五時半から約二時間の朝勤。その後、朝食・掃除・昼食・雑務・夕勤(一時間)・夕食・入浴・夜勤(唱題行二時間)という日課です。これがそのままK君の一日の修行内容となるのですから、修行が始まってから最初の三週間は、K君にとってまさに難行苦行の日々でした。

調不良の為に就職することも出来ず部屋に閉じ籠りきりで、寝てばかりの生活を送っていたK君。彼の家は祖父の代から、何か困りごとがある度に当山に相談に見え、靈断法の指導を受けてお題目の信仰で良い方向に導かれた家。

ついに彼のご両親は、当山に相談する決心をし、K君を伴って山門をくぐったのでした。

「今の苦しみから抜け出して、一人前の大人として歩んで行きたいのです。何とかして救って頂きたいのです」との、切なる願いを受けての『靈断』でした。

私は、本人の一心なるお題目修行のみが、K君が救われる唯一絶対の道である。との靈断法の御教示をK君とご両親にお伝えしました。この病を克服する為には、当山への日参が必要不可欠でした。しかし、K君の実家は、当山から約三〇〇\*離れた場所であり、片道だけでも約五時間もかかる道のりです。日参は容易なことではありません。

その時、K君はこう私に言ったのです。

「僕は、何が何でも救われたいのです。どうかこのお寺で修行させて下さい」真剣な眼差しでK君を見て、私は即座に彼の願いを受け入れました。この日からK君の当山の泊まり込みの修行が始まったのです。



「お題目の信仰によりご利益を頂戴しても、時間が経つと、信心を捨てる人がいる。信仰というのは、水の流れるが如く、いつか退せず信じていることである(意訳)」

(上野殿御返事)

「既に佛を良医と号し、法を良薬に譬へ、衆生を病人に譬ふ。されば如来一代の教法を擣り、和合して妙法一粒の良薬に丸せり。豈知養も知らざるも服せん者、煩惱の病よくな癒えざるべしや。病者は薬をもしらず、病をも弁えずといえども、服すれば必ず癒ゆ」

大聖人様は、仏様を名医、法華経を良薬に譬え、私共衆生を病人に譬えて、お釈迦様の教え『法華経』を擣き篋い和合して妙法一粒の良薬に丸めて、この良薬の効能を知る人も知らない人も、服用する人は、どんな煩惱の病であつても必ず癒えると、お示し下さったのです。

「お題目の信仰によりご利益を頂戴しても、時間が経つと、信心を捨てる人がいる。信仰というのは、水の流れるが如く、いつか退せず信じていることである(意訳)」

(上野殿御返事)

と仰せです。K君の信仰も又、かくあつて欲しいと願う私です。

どうか皆さんは、常に「俱生神月守」を肌身離さず着帯し、身近に苦しんでいる人、悩んでいる人が居るならば、迷うことなく俱生神月守をお勧めし、お題目の信仰に導いて下さい。それが私達聖徒の役目です。



「お題目の信仰によりご利益を頂戴しても、時間が経つと、信心を捨てる人がいる。信仰というのは、水の流れるが如く、いつか退せず信じていることである(意訳)」

(上野殿御返事)

「既に佛を良医と号し、法を良薬に譬へ、衆生を病人に譬ふ。されば如来一代の教法を擣り、和合して妙法一粒の良薬に丸せり。豈知養も知らざるも服せん者、煩惱の病よくな癒えざるべしや。病者は薬をもしらず、病をも弁えずといえども、服すれば必ず癒ゆ」

大聖人様は、仏様を名医、法華経を良薬に譬えて、私共衆生を病人に譬えて、お釈迦様の教え『法華経』を擣き篋い和合して妙法一粒の良薬に丸めて、この良薬の効能を知る人も知らない人も、服用する人は、どんな煩惱の病であつても必ず癒えると、お示し下さったのです。

**砥森山 法華寺**

生きて救われの道場

住職 阿部 是秀  
副住職 阿部 是眞

〒028-0304  
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1  
電話 0198-67-3166  
FAX 0198-67-2227

**正立山 妙法寺番神聖徒団**

団長 新聞 信應

毎月1日 10時 盛運祈願祭

お困り事はすぐ相談

神秘秘密の扉が開く時、必ず利益がいただける。

〒690-2404 島根県雲南市 三刀屋町三刀屋1169  
TEL 0854-45-3657  
FAX 0854-45-3666

安房乃國隨一 三十番神祈願道場

**顕本寺聖徒団**

団長 小泉 輝泰

「1人で悩まず、まずは相談」

〒295-0002  
千葉県南房総市千倉町川合690-1  
TEL 0470-44-1062  
FAX 0470-44-1524

信用第一の専門店

◇格調高い関東風仏具◇

宗務院指定

仏壇・仏具 仏像彫刻  
内陣荘厳具 設計製作

**(株)中野三佛屋**

東京都台東区寿2丁目7の12  
電話 03 (3843) 6951  
FAX 03 (3843) 6973  
定休日 日曜日

手描絵、機械絵、冊子、広告、絵画、写真集、挿絵、名刺、葉書

会社案内、お守り、ステッカー、印刷物、意匠(デザイン)全般

**Syoumukou**

株式会社 昇夢虹 (しょうむこう)

〒078-8801 北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号  
TEL (0166) 68-2004 FAX (0166) 68-2005  
<http://syoumukou.com>  
info@syoumukou.com

本誌イラスト 小川けんいち